

# メタンハイドレート開発計画の促進

政策提言先 資源エネルギー庁

## 政策提言の要旨

メタンハイドレートの実用化に向けた取組を加速化させるとともに、メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアムにおいて、土佐沖をフィールドとした掘削試験の実施により産出技術の開発を推進し、わが国のエネルギーの安全保障としての対応を図ることを提言します。

### 【政策提言の具体的内容】

- ① エネルギーの安全保障の対策としても有効であるメタンハイドレートの実用化に向けた取組を加速化していただきたい。
- ② 土佐沖のように水深が深く、潮流が速いという過酷な条件下での産出技術を開発できるよう、土佐沖をフィールドとした掘削試験の実施をお願いしたい。
- ③ 土佐沖での掘削試験の活動拠点として高知新港を積極的に活用いただきたい。また、本県を商業化の際の陸揚げ基地と位置付けた開発計画を策定いただきたい。

### 【政策提言の理由】

- ① メタンハイドレート資源の開発は、生産技術の実証等を目的としたフェーズ2からフェーズ3へと移行される段階で、平成27年度末頃には、技術開発の進捗状況を検証し、平成28年度以降の具体的な目標やスケジュール等の見直しを行う予定となっています。  
メタンハイドレート開発計画は、平成30年度までに「商業化の実現に向けた技術の整備」を図るとされていますが、エネルギーの安全保障の観点からも、純粋国産のエネルギーとして期待されるメタンハイドレートの実用化を早期に実現する必要があります。
- ② 日本近海に広く分布するメタンハイドレートを産出するためには、様々な条件下での産出技術を開発する必要があります。このため、水深が深く、黒潮による潮流が速い土佐沖をフィールドにした掘削試験を実施することが必要と考えます。
- ③ 高知新港は太平洋に面しており、「地球深部探査船ちきゅう」の入港も可能です。さらに、本県には、高知大学と海洋研究開発機構が共同運営する高知海洋コアセンターがあり、調査や開発研究において産学官の連携が期待できますことから、掘削試験のための作業船の活動拠点として高知新港を積極的に利用していただくことが有効であると考えます。  
また、高知新港は広い後背地もあり、高速道路や空港へのアクセスも良いことなど、土佐沖のメタンハイドレートの陸揚げの基地として有利な条件を有していますことから、高知県を位置づけた開発計画を策定し、取り組みを推進することが効果的であると考えます。

# メタンハイドレート開発計画の促進～土佐沖をフィールドにした掘削試験～

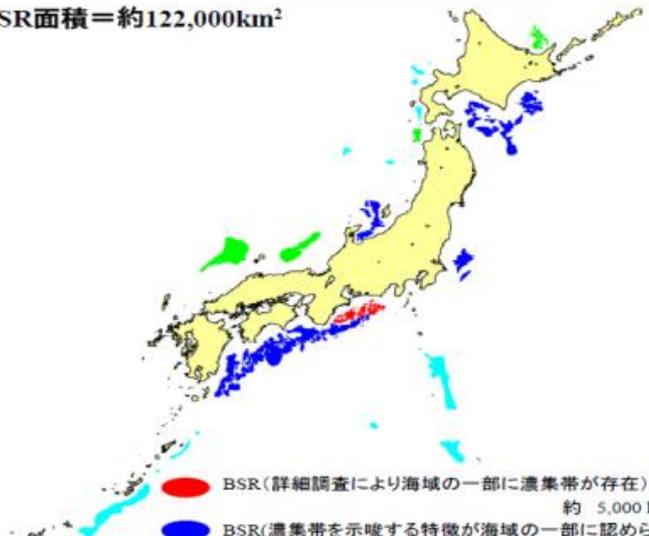
## 提言内容

- ① メタンハイドレートの実用化に向けた取組を加速化すること。
- ② 深い水深、早い潮流の土佐沖をフィールドにして掘削試験を実施すること。
- ③ 掘削試験のための活動拠点として高知新港を活用すること。また、陸揚げ基地として高知県を位置付けた開発計画を策定すること。

○土佐沖は最大の推定埋蔵域

最新のBSR分布図(2009年)

BSR面積=約122,000km<sup>2</sup>



○太平洋に面する高知新港は、高速道路や空港へのアクセスも良く、作業船の活動拠点や商業化の際の陸揚げ拠点として最適

○土佐沖は調査、研究に適したフィールド



海洋コアセンター

※調査や研究開発において、産学官の連携が期待できる。

高知新港

※太平洋に面する港で、「地球深部探査船ちきゅう」も入港できる。

※水深が深く、黒潮による潮流が速い土佐沖は技術開発のフィールドに適している。

※12m岸壁をはじめ複数の岸壁と利用可能な後背地を有している。



-12m

-11m

-7.5m(予定)